

# 日中両言語における〈時間〉の認識

## —《時間は物理的なもの》を例に—

Epistemology of Time in Japanese and Chinese:  
A Case Study of TIME IS PHYSICAL OBJECT

韓涛<sup>†</sup> , 路浩宇<sup>††</sup>

HAN Tao, LU HaoYu

**Abstract** Human beings acquire all kinds of concepts through interaction between the outer world and human itself, and TIME is such a concept. In our daily life, how is the abstract concept of TIME understood and used? For this concept, do different language systems share something in common?

This essay aims to examine the metaphor of TIME via the perspective of PHYSICAL OBJECT, trying to clarify the differences and similarities for the concept of time between Chinese and Japanese.

### 1. はじめに

人間は外部世界と相互作用する中で様々な概念を獲得しており、〈時間〉はその中の 1 つであると考えられる。この抽象的概念について我々は日常生活の中でどのように理解し語っているのであろうか。異なる言語における時間の捉え方もしくは認識は同じなのであろうか。

従来、この問題について認知メタファー理論の立場から、主に日英対照研究や中英対照研究を中心に考察が行われてきた (Shinohara 1999、Yu2012、龚萍 2005、蓝杨 2012 など)。しかしその一方で、日中対照の観点からこの問題を論じた研究は管見の限りまだみられない。また、〈時間〉のメタファーを論じた先行研究は Lakoff and Johnson 1980 から受けた影響が大きく、《時間は移動》(Time as Motion)<sup>1</sup> の観点から論じた研究が多くなっているのに対し、〈もの〉(例えば〈個体〉—〈流動体〉)の観点から論じた研究はまだ本格的になされていないのが現状である。

以上を踏まえ本稿では〈もの〉の観点から〈時間〉のメタファーについて考察し、〈時間〉の認識に関する日中両言語の類似点と相違点を明らかにしていく。

### 2. 日中両言語における時間認識の類似点と相違点

〈時間〉は〈音〉や〈色〉といった概念とは異なり、五感を通して直接捉えられない存在であり、非常に抽象的な概念である。そのため、これを理解し語る際に、まず空間上において一定の輪郭をもった存在—とりわけ〈物理的なもの〉として概念化する必要がある。たとえば物理的なものであれば、それを長くしたり短くしたりするといった操作が可能であるが、次の例 (1) (2) にみられるように、この種の物理的な操作は〈時間〉という抽象的な概念にも当てはまる。

- (1) a. 髪を長くする  
b. 時間を長くする  
(2) a. 髪を短くする  
b. 時間を短くする

上の例 (1) (2) が示しているように、日本語では「○○を長く/短くする」という表現は「髪」のみならず、〈時間〉にも適用され、このとき〈時間〉は〈長さ〉をもつ〈もの〉の一種として概念化されていることがわかる。そして次の例 (3) (4) にみられるように、同様のことは中国語についてもいえる。

<sup>†</sup> 北京外国語大学日本語学部 (中国北京市)

<sup>††</sup> 愛知工業大学基礎教育センター (豊田市)

- (3) a. 头发长 [髪が長い]  
 b. 时间长 [時間が長い]  
 (4) a. 头发短 [髪が短い]  
 b. 时间短 [時間が短く]

ただし注意しなければならないのは、物理的な操作であれば、そのすべてが〈時間〉に適用するというわけではないという点である。

- (5) a. 髪の毛を曲げる  
 b. \*時間を曲げる  
 (6) a. 髪の毛を結ぶ  
 b. \*時間を結ぶ  
 (7) a. 把头发打个结  
 b. \*把时间打个结  
 (8) a. 头发分叉了 [髪が二股に分かれた]  
 b. \*时间分叉了

上の例 (5) ~ (7) が示しているように、〈曲げる〉や〈結ぶ〉といった物理的な操作は〈髪〉のような〈物理的なもの〉には適用されるものの、〈時間〉には適用されない。その理由は、いわゆる「目標領域制約」(Target-domain Overrides) によるものであると考えられる。つまり、〈曲げる〉や〈結ぶ〉といった物理的な操作は〈時間〉という目標領域における固有のイメージ・スキーマと衝突を起こすため、目標領域への写像がブロックされたのである。同様のことは例 (8) についてもいえる。

また、同じ〈長さ〉をもつ〈もの〉であっても〈髪〉と〈時間〉には重要な相違点がみられる。たとえば日本語では「髪を短くする」という表現を表す際に、「髪を短く切る」や「ハサミで髪を短く切る」などより具体性の高い表現も可能である。しかし〈時間〉を表す際に、当該表現を用いることはできない。換言すれば、日本語では〈髪〉などのような〈物理的なもの〉に比べ、〈時間〉はより抽象度の高いレベルで概念化されているといえる。次の例 (9) (10) の成立の可否からわかるように、〈時間〉に関するこの種の認識は日中両言語に共通してみられる。

- (9) a. 把头发剪短 [髪を短く切る]  
 b. \*把时间剪短 [\*時間を短く切る]  
 (10) a. 用剪子把头发剪短 [ハサミで髪を短く切る]  
 b. \*用剪子把时间剪短 [\*ハサミで時間を短く切る]

しかしその一方で、日中両言語には大きな相違点もみられる。次の例 (7) にみられるように、日本語では〈時

間〉は「飛行機」と同じように飛び去ることができ、一種の〈移動物〉としてメタファー化されうる。

- (11) a. 飛行機は飛び去る  
 b. 時間は飛び去る

そしてこのとき、〈時間〉という〈移動物〉は一種の〈個体〉であると考えられる。これに対して次の例 (12a) (12b) が示しているように、中国語の“飞走”という動詞は「飛行機」のように〈時間〉をその項として取ることができず、同様の意味を表すには“流走”のような〈時間〉を〈流動体〉として捉える表現を用いなければならない(例 (12c) 参照)。

- (12) a. 飞机飞走了 [飛行機が飛び去った]  
 b. \*时间飞走了  
 c. 时间飞快地流走了 [時間が飛ぶように流れて行った]

〈時間〉を一種の〈個体〉(individuum) として捉えるか、それとも一種の〈流動体〉(fluid) として捉えるかに関して日中両言語は違いを有するものの、次の例 (13) (14) が示すように、〈時間〉が〈東〉や〈西〉などの移動方向を示す語句と共に起できないという点で一致している。

- (13) a. 飛行機は東へ/西へ飛び去る  
 b. \*時間は東へ/西へ飛び去る  
 (14) a. 飞机向东/向西飞走了 [飛行機が東へ/西へ飛び去った]  
 b. \*时间向东/向西飞快地流走了

これはいわゆる〈時間〉にかかわる〈前・後〉の制約 (the Front-Back constraint)<sup>2</sup> が関与した結果であると考えられる。

以下、〈個体〉か〈流動体〉の観点から、日中両言語における〈時間〉のメタファーについてさらに考察をすすめる。

## 2.1 〈流動体〉としての〈時間〉

まず日本語には〈流動体〉としての〈時間〉を表すメタファー表現として、以下のようなものが挙げられる。

- (15) a. 月日が流れる  
 b. 時の流れに逆行する  
 c. 時の流れに巻き込まれる

例 (15) が示すように、〈時間〉は「川」のように流れる

## 日中両言語における〈時間〉の認識

だけでなく、その流れに逆行したり、巻き込まれたりすることも考えられる。また、次の例(16)からわかるように、我々は日常経験の中で川の流れの〈様態〉や〈速度〉に関して様々な知識をもっている。

- (16) a. ダラッと流れる  
 b. ゆっくりと流れる  
 c. スースーと流れる  
 d. ドッと流れる  
 e. どろりと流れる  
 f. パッと流れる  
 g. サラサラと流れる  
 h. ゆったりと流れる  
 i. 滔々と流れる  
 j. ドバッと流れる  
 k. のんびりと流れる  
 l. ゴーゴーと流れる  
 m. ざぶざぶと流れる  
 n. どくどくと流れる  
 o. どっどつと流れる  
 p. ざーざー流れる  
 q. 緩やかな流れ  
 r. 穏やかな流れ

そして以下の例(17)にみられるように、この中の一部の表現が〈時間〉を表すのにメタファー的に転用される<sup>3</sup>。なお、例(18)～(26)は実例である。

- (17) a. ダラッと流れる時間  
 b. ゆっくりと流れる時間  
 c. \*スースーと流れる時間  
 d. ドッと流れる時間  
 e. どろりと流れる時間  
 f. \*パッと流れる時間  
 g. \*サラサラと流れる時間  
 h. ゆったりと流れる時間  
 i. 滔々と流れる時間  
 j. \*ドバッと流れる時間  
 k. のんびりと流れる時間  
 l. \*ゴーゴーと流れる時間  
 m. \*ざぶざぶと流れる時間  
 n. \*どくどくと流れる時間  
 o. \*どっどつと流れる時間  
 p. \*ざーざー流れる時間  
 q. 緩やかな時間  
 r. 穏やかな時間

- (18) 1人がクラス全員の前で発表すると、それはそれで発表する人にとっては価値があることですが、それ以外のただ聞いているだけの大多数の人にとっては、集中力が持続するわけでもなく、何となくダラッとした時間が流れることがよくあります。

<http://papa-kansoubun.cocolog-nifty.com/blog/2012/02/post-7c2b.html>

- (19) アラビダ半島の南岸、風光明媚な漁村セジンプラで、ゆっくりと流れる時間を満喫してください。

<http://www.veltra.com/jp/europe/portugal/ctg/59405940/>

- (20) すみません、やたらと課題やらバイトやらと追われているうちにいつの間にか時間がどつと流れたかのように感じます。

<http://cellbank.nibio.go.jp/legacy/visitercenter/communication/nkgw018.htm>

- (21) 深夜のオフィスにどろりとした時間が流れ、貴史はあきらめる。いろんなことを、あきらめる。

[http://www.1101.com/iphone\\_novel/2013-07-05.html](http://www.1101.com/iphone_novel/2013-07-05.html)

- (22) ゆったりと流れる時間を味わいながら、ゆったりと読書するのも大好き

<http://ameblo.jp/kosoku-tairyokaiten-ho/entry-11980549070.html>

- (23) ああ、春が恋しい。今年はまだ始まったばかりなのに、もうすでに、一つの季節が終わろうとしている。滔々と流れる時間のなかで、私はどれだけのことができるのだろうか。

<http://ameblo.jp/ayami871103/>

- (24) のんびりと流れる時間の中、春夏秋冬、それぞれに移り変わる蔵王の絶景を窓から眺めて、昭和時代のハイカラさん気分には浸ってみたいかがでしょうか。

<http://www.miyagi-kankou.or.jp/modelcourse/route002.html>

- (25) イチロー、ヤンキースキャンプで流れる「緩やかな時間」

<http://www.nikkei.com/article/DGXZZO52084830U3A220C1000000/>

- (26) 今日の終わりと明日の始まりをつなぐ夜、一人静かに紅茶などいただきながら、穏やかな時間を過ごす。blogs.yahoo.co.jp/earlgrey0315

一方、日本語同様、中国語でも〈時間〉を「川」のよ

うな〈流動体〉として概念化することができる。

[http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question\\_detail/q1110484136](http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1110484136)

- (27) a. 岁月流逝 [時が流れる]  
 b. 跨越时间的长河 [時間の流れを越える]  
 c. 在时间的长河里逆流而上 [時間の流れを遡って行く]  
 d. 浩渺的时间长河 [広々とした時間の流れ]  
 e. 时间缓缓地流逝 [時間がゆったりと流れてゆく]  
 f. 时间飞速地流逝 [時間が急速に流れてゆく]

また、上の例 (27d) ~ (27f) が示すように、〈時間〉の概念化に転用される川の流れの〈様態〉や〈速度〉を表す表現が中国語にも観察される。

一方、中国語では〈時間〉は〈容器〉の中の〈流動体〉として概念化される場合もある。

- (28) a. 你把所有可做可不做的事拒绝掉, 时间就像湿毛巾里的水, 一滴一滴地拧出来了。  
 [どうでもいいことをすべて断れば、時間は湿ったタオルの中の水のように、少しずつ出てくる (←一滴ずつ搾り出される) のだ。]  
 b. 时间, 就像海绵里的水, 只要你愿挤, 总是会有有的。  
 [時間はスポンジの中の水の如く、絞りさえすれば、所詮出てくるものなのだ。]

上の例 (28) が表すように、このとき我々は〈容器〉 - 〈内容物〉の性質、具体的にいえば「〈容器〉の中の〈内容物〉がほしければ、努力して〈内容物〉を〈容器〉の中から出さなければならない」というものに基づいて〈時間〉について推論することもできる。しかしながら、日本語では同様の表現、例えば「〇〇から時間を絞り出す」が観察されず、この点において日中両言語は異なっているといえる。

## 2.2 〈個体〉としての〈時間〉

次の例 (29) は、日本語における〈個体〉として概念化される〈時間〉のメタファー表現 (の一部) である。

- (29) a. 冬が忍び寄る  
 b. 時間が押す  
 c. 時間を置く  
 d. 時間を削る  
 e. 時間をつぶす  
 f. ゴチ新メンバー発表にまさか2時間引つ張るのでしょ

例 (29a) は例 (11b) と同様、〈時間〉が〈移動する個体〉として概念化される例である。これに対して例 (29b) ~ (29f) では〈時間〉は〈移動物〉ではなく、単なる操作される〈物理的なもの〉として概念化されている。

これに対して次の例 (30) は中国語における〈個体〉として概念化される〈時間〉のメタファー表現 (の一部) である。

- (30) a. 光阴似箭 [光陰矢のごとし]  
 b. 岁月如梭 [歳月は早く過ぎる (梭のごとし)]  
 c. 放一段时间 [しばらく時間を置く]  
 d. 拖时间 [時間を引き延ばす]

例 (30) が示しているように、〈移動する個体〉としての〈時間〉と〈操作されるもの〉としての〈時間〉は中国語にもみられ、日本語と軌を一にしている。しかしその一方で次の例 (31) (32) が示すように、日本語には中国語に直訳できない表現もみられる。

- (31) a. 時間を削る  
 b. \*削时间 (→減少时间)  
 (32) a. 時間をつぶす  
 b. \*弄碎时间 (→消磨时间)

上の例 (31b) (32b) の中国語訳がいずれも成立しないということから、動作の〈対象物〉として概念化される〈時間〉のバリエーションに関して日本語は中国語より豊富であると考えられる。

## 3. おわりに

Lakoff and Johnson 1980 によって指摘されているように、メタファーは単なる言葉のあやではなく、我々の思考様式や行動パターンにも密接に関わっている。そのため、異なる言語や文化における名詞概念化を考察することで問題の言語・文化共同体の背後に存在する異なる思考様式や行動パターンについてみるのが可能である。本稿では〈もの〉の観点から〈時間〉のメタファーについて考察し、〈時間〉の認識に関する日中両言語の類似点と相違点を明らかにした。

## 注

- 1 Lakoff and Johnson 1980 によれば、当該メタファーはさらに (i) 〈時間は移動物〉 (Time Is A Moving Object)、

## 日中両言語における〈時間〉の認識

(ii) 〈時間は観察者が移動するランドスケープ〉 (Time Is A Line Along Which Observers Move) の2つに分けられる。このうち、前者が本稿の考察対象である。

- 2 Shinohara 1999 : 198 では時間に写像できる空間的方向性は基本的には〈前・後〉に制約されると述べられている。
- 3 川の流れを表す〈様態〉や〈速度〉の表現が部分的に目標領域である〈時間〉に写像されるということは、言い換えれば、起点領域と目標領域の間に一種のギャップ (gap) がみられるということである。このギャップの問題に関する議論は別稿に譲る。

## 主要参考文献

龚萍 2005 〈从认知语言学角度看英汉语时间概念隐喻的差异〉 《长江大学学报》第28卷第4期 104-106页。

蓝杨 2012 〈朱自清《匆匆》汉英版本中时间概念隐喻探析〉 《盐城师范学院学报》第32卷第1期 75-78页。

Kazuko, Shinohara 1999. Epistemology of Space and Time: Analysis of Conceptual Metaphors in English and Japanese, *Educational Studies*, 41, 195-213.

Lakoff, George and Mark Johnson. 1980. *Metaphors we live by*. Chicago: University of Chicago Press.

Ning, Yu 2012. The metaphorical orientation of time in Chinese, *Journal of Pragmatics*, 44, 1335-1354.

日本語用例出典：KOTONOHA (現代日本語書き言葉均衡コーパス)

中国語用例出典：北京大学中国語研究センター (CCL) 語料庫

(受理 平成27年3月19日)